

「A」次の文の（訳）の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

1 日ごろよく「御弟子にて候はむ」と契りて、すかし申し給ひけむが恐ろしさよ。（大鏡）

（訳） つね日ごろよく「御弟子としてお仕えしよう」と約束して、「」申し上げなされたとかいうことこの恐ろしさよ。

①無視し ②だまし ③逃亡し ④喜ばせ

2 同じ人ながらも、心ざしある折とかはりたる折は、まことにこと人とぞおぼゆる。（枕草子）

（訳） 同じ人でも、愛情がある時と心変わりした時とは、本当に「」人のように思われる。

①意外な ②会いたい ③昔の ④違う

3 （源氏ハ）のたまひしもしるく、十六夜の月をかしきほどにおはしたり。（源氏物語）

（訳） 源氏はおっしゃったこと「」、陰暦十六日の夜の月が美しい時にお越しになった。

①もそのとおりに ②を証明するように ③がやはり正しく ④もはつきりしていて

4 など、あたら夜を御覧じさしつる。（源氏物語）

（訳） どうして、もつたいない月夜を「」ご覧になる「」たのか。

①もうくのをやめ ②途中でくのをやめ ③急にくことになつ ④即座にく気になられ

5 涙にくれてゆく先も見えねば、なかなか見参かなと、今はくやしうぞ思はれける。（平家物語）

（訳） （三位中将重衡卿は）涙に目がかすんで前方も見えないので、（妻との最後の対面は）かえってしなけれ

ばよかった対面だなあと、今は「」と思いなされた。

①不幸だ ②くやしい ③仕方ない ④悔やまれる

6 あかぬ別れの涙には、袖しはたれてほしあへず。（平家物語）

（訳） 名残惜しい別れの涙には、袖が「」て乾かしきれない。

①涙となつ ②涙を吸つ ③涙をぬぐつ ④涙で濡れ

7 帝をわがままに、おぼしきさまのまつりごとせむものぞ。（蜻蛉日記）

（訳） 天皇を意のままに（して）、思いどおりの「」を行うようになるにちがいない。

①布教 ②行事 ③政治 ④遊び

8 姫君は、らうらうじく、深く重りかに見え給ふ。（源氏物語）

（訳） 姫君は、「」、「」思慮深く重々しくお見えになる。

①誠意があり ②心労があり ③気品があり ④教養があり

「B」次の文の（訳）の「」に入る語句を答えよ。

9 見し夢を、心一つに思ひあはせて、また語る人もなきが、いみじういぶせくもあるかな。（源氏物語）

（訳） かつて見た夢を、自分一人の心の中で解き明かして、ほかに打ち明ける人もいないことの、ひどく「」

「」もあることだよ。

10 女もいやしければ、すまふ力なし。（伊勢物語）

（訳） 女も（下女で）身分が低いので、（男の親に）「」力はない。

①「」

11 さは、三条院の、御末は絶えねとおぼしめし、おきてさせ給ふか。（大鏡）

（訳） それでは、三条院が、ご自身の皇統は絶えてしまえとお思いになり、「」なされたのか。

①「」

12 昔のよしみを忘れぬことはあはれなれども、思ひ立つこそおほけなけれ。三日平氏とはこれなり。（平家物語）

（訳） （伊賀・伊勢の者たちが平家の）昔の恩義を忘れないことは心を打つけれども、（源氏との戦いを）決心

するとは「」。三日平氏とはこれである。

①「」

解答

【新三年生用】 古文単語330三訂版 P 258～P 267

- 1 「②」
- 2 「④」
- 3 「①」
- 4 「②」
- 5 「④」
- 6 「④」
- 7 「③」
- 8 「③」
- 9 「気が晴れなく」
- 10 「抵抗する」
- 11 「あらかじめ決め」
- 12 「身の程知らずだ」